

【評議員会議事録】

日 時：2011年3月17日（木）16：00～17：50
場 所：国立天文台三鷹 大会議室
出席評議員：伊藤，井上，岡村，海部，坂田，牧島，額重，観山，渡部，杉山(TV)（以上10名）
欠席評議員：家，池内，奥村，佐藤，須藤，谷口，筒井，望月，山田，劉（以上10名）
その他，河合副理事長，本原・竹田庶務理事，松尾・田代会計理事，幸村年会理事，宮下事務長が出席した。
なお，岡村理事長と杉山副理事長は評議員を兼任している。また，杉山評議員はTV会議システムにより参加した。
家，池内，佐藤，須藤，谷口，筒井，望月の7評議員からは事前に委任状が提出されている。

I. 確認事項など

I-1 議事に先立ち，出席者及び委任状提出者が17名で定足数を満たし，本会が成立することが確認された。また議長と署名人が以下のとおり選出された。
議 長：観山正見
署名人：海部宣男，渡部潤一
I-2 観山評議員・議長より，3/11に発生した東日本大震災被災者に対するお悔やみおよびお見舞いの言葉が述べられた。
I-3 資料1に基づいて前回2011年2月5日の評議員会議事録の確認が行われた。

II. 報告

II-1 年会中止について（幸村，資料2）
幸村年会理事より，春季年会の中止に伴う種々のキャンセル手続きがすべて完了したことが報告された。また，企画セッション，特別セッションについては次回開催の希望が出ていること，ポスターボードのキャンセルで実費のみ請求があり，支払いを行うことが報告された。
II-2 前回以降の新入・退会等会員の変動（本原，資料2）
2011年1月22日より2011年3月11日までの間の会員変動が報告された。2011年度に新たに1名の休会申請があった。申請締め切り後であったが，理由書を提出してもらった上で実務理事で議論し，特例として承認した旨報告された。
II-3 2011年の全国同時七夕講演会について（本原，資料2）
年度および一昨年度，日本天文学会と天文教育普及研究会の共催で実施し，好評であった全国同時七夕講演会を，今年度も同様な形で行うことが報告された。柴田一成氏に委員長をお願いし，担当理事は河合副理事長（広報担当）とする。
II-4 小惑星・彗星・流星に関する国際会議開催について（渡部，資料2）
渡部評議員より天文学会が後援している「2011 Asteroids Comets Meteors Conference」が2011年7月18日～22日に新潟で開催される予定である。開催の可否を3月中に決定する必要があるし，震災の影響もあり難しいかもしれないことが報告された。
II-5 PASJ理事からの報告（本原，資料2）
すばる特集号は3月末刊行予定であったが，地震の影響で紙版発行，電子版公開ともに4月上旬に遅れる。外国人編集委員については，ソウル大学のHyung Mok Lee氏と上海天文台のYipeng Jing氏に依頼し，快諾を得た。この2名の方にはPASJ電子版へのフリーアクセス権を付与することとした。
II-6 各賞の授賞式の取り扱いについて（本原，資料2）
授賞自体は前回の評議員会で確定しており，さらに次号の天文月報で公表されるが，授賞式は次回秋季年会以降に延期する。賞状，メダル，目録は事務所で保管しており，授賞式で手渡す。以上のことは受賞者に連絡済みであることが報告された。賞金の取り扱いについて議論を行い，早急に受賞者に振り込むこととした。また，次回秋季年会で授賞式や受賞講演などすべてをこなすためには，開催日数を増やすなどの対応が必要になる。
II-7 公開講演会および記者発表について（本原，資料2）
公開講演会会場は当初3月19日より営業を再開する予定で，講演者も協力する意向を示しており，ぎりぎりまで開催の可能性を探っていた。しかしながら会場の被害が当初の予想以上に深刻であったこと，余震や原発事故などもあり安全確保に不安があることから，3月16日に理事長判断で中止を決定し，可能であれば4月以降の適当な時期に筑波で仕切りなおして行うことを検討する。記者発表についても現時点で行っても記者も集まらず，報道もされないと考えられるため，こちらも4月以降に延期する。

III. 議題

III-1 年会参加に際しての講演登録料の事前支払いについて（幸村，資料2）
年会講演登録料の事前支払いを実施したい旨，幸村年会理事より提案があった。
-実施開始時期については2011年度秋季年会から開始する。銀行振込または郵便振替のみとし，それが物理的に不可能な会員については支払期間後の払込を認める。振込・振替手数料は会員が負担する。
-支払期間は講演申込受付開始から2週間とする。また，支払期間を過ぎても支払いがない場合，督促を行い，年会初日までに支払いがない場合は500円程度の事務手数料を追加で請求する。
これら提案に対し，移行期間中は3,500円を年会受付で支払ってもいいのではないかと，そもそもこれは事務長が持ち運ぶ現金を可能なかぎり減らすためのものなのでそれはしないほうが良い，方向性はいいので，数回かけて試行錯誤しても良いのではないかと，などの意見が出された。これら議論の後，事前支払いを2011年秋季年会から実施し，支払期間は2週間とすることで承認された。
III-2 2準会員の年会参加登録費について（幸村，資料2）
幸村年会理事より，前回理事会・評議員会で議論が行われた準会員の年会参加登録費の取り扱いについて，さらなる調査を行った結果が報告された。まず，直近3回の年会では準会員による講演は全体の1割足らずであり，年会の運営に影響を与えるほどではない。また，歴史的に特別会員と通常会員，または正会員と準会員の間で年会の参加費に違いはなかった。これらのことから準会員の年会参加登録費を一般会員よりも高くする必要はないと提案があり，承認された。ただし準会員による発表の中でプロ（大学や研究機関所属）の割合は8割であり，さらに年会発表を行わないプロの準会員が増加している可能性があり，そもそも日本天文学会正会員とはどういうものなのかを考えないといけないという指摘があった。また，たとえば物理学会をメインとしている準会員がいるのでプロが準会員でも良いという議論があったが，逆に天文学会がメインの会員に物理学会でそのような恩恵はない，そもそも準会員制度は日本天文学会特有の制度である，財務諸表を見ると準会員は日本天文学会の財政に相当な貢献をしている，などの議論が行われた。これらの議論を受け，庶務理事が中心となって準会員の状況を引き続き慎重に調査することとした。
III-3 評議員選挙公示について（本原，資料2）
評議員選挙を4月20日に公示して行うことが承認された。また，評議員選挙の当選者は本人に受諾する意思がないままに選出されることがあり，それを防ぐためにも当選本人の意思確認を行い，断られた場合に繰り上げ当選ができないか，という意見があったが，定款を精査したところそれは行えないことが確認された。
III-4 年会発表のない場合の予稿集の取り扱いについて（本原，資料2）
年会の発表は予稿集の記述と年会でのプレゼンテーションで構成されるというのがこれまでの理解であったが，今回の年会中止により，プレゼンテーションは行われない。しかしながら，講演内容を記述した講演予稿集は公表・販売されていることから，今回に限り年会での発表は完了したとみなし，次回年会以降今回と同一の内容の発表は認めないとする理事会案が本原庶務理事より出された。これに対し，完結した仕事として終わった物を学会発表できなくなってしまったことに抵抗がある，今回の事態ではそれは仕方が無いのではないかと，発表の機会としては最終的には論文としてまとめるべきではないかと，そもそもプレゼンテーションだけを秋季年会で行うことは運用面から難しいだろうと理事会では議論した，その理事会の判断は理解できる，などの議論があった。以上の議論を経て，提案は当初の通り承認された。
III-5 予稿集の販売価格について（幸村，資料2）
幸村年会理事より，今回の春季年会は中止されたものの予稿集は研究結果を公表したものであることから，従来から行っていた年会終了後の販売価格である1,000円にて販売を行うことが提案された。年会キャンセルによる収入減を補うためにも，なるべく広い範囲にアナウンスを行い，販売努力をすることとした。なお，198名の事前購入者については差額1,000円の払い戻しを行うこととし，その方法は早急に検討する。また，予稿集に掲載された広告費は出稿した企業に請求を行うこととした。これに対し，予稿集の価値は低下していないのだから2,000円のままでいいのではないかとという指摘があり，これまでの予稿集も会期終了後は半額で販売していたので今回もそのような理解であると説明された。また，財政的インパクトは許容範囲内であると説明された。以上の議論を経て，提案は承認された。
III-6 会被災者支援と学会の財務状況について（松尾，資料2）
松尾会計理事より，今回の大震災の日本天文学会の財政へのインパクトの試算が説明されるとともに，いくつかの提案がなされた。
-年会中止による赤字は予稿集の印刷代115万円からその売上を差し引いたものと，ポスターボードキャンセル分26万円など合わせて130万円程度であり，致命的影響はない。
-被災者の一年分の年会費免除を行う予定である。対象者は70名以上になるものの，申告制であることから必要経費は100万円程度であると想定している。すでに会費納入を完了している被災者については，2012年度の会費免除を行う。また，全会員について会費納入期限を一ヶ月ほど延長し，4月下旬としたい。
-秋季年会が東北大学で開催できない場合，代替会場としてコンベンションセンターなどを用いると1,000万円以上の経費が見込まれ，現在の財政では支えきれない。
-被災者の会員をサポートするための寄付を集めることも考えている。
これに対し，より大きな問題として，この未曾有の事態に日本天文学会としてどのように対応するのかを考えるべきではないかとという指摘があった。また寄付を集めるのであれば直接被災地へ募金するべきではないかとという指摘もあり，これに対しては年会中止に起因する学会財政への負の影響の補填のためではなく被災者への年会出席のための旅費補助などの目的を限った財源として考えている旨説明された。また，日本天文学会としては今回の事態を深く憂慮していることをまず表明し，もう少し長いタイムスケールでできることを考えていくべきであるという意見もあった。
以上の議論を経て，被災者への会費免除，及び会費納入期限の延長が承認された。また，被災者援助についても理事会で検討をすすめることが承認された。
III-7 2011年度秋季年会について（本原，資料2）
秋季年会の開催予定地は東北大学であるが，社会インフラの被害状況などをみると開催は困難であることが予想される。山田開催地理事と連絡をとったところ，秋季年会の代替開催地を検討することについては問題ないが，今秋ならずとも，いずれ年会開催を引き受けたいという意向であることが報告された。また，これを受けて，鹿児島大学と名古屋大学に代替開催を打診している旨報告された。鹿児島大学であれば，9/19-22の4日間開催，名古屋大学であれば9/25の週の開催となる。秋季年会の開催地は遅くとも4月下旬には決定して天文月報の記事にする必要があることから，東北大学開催の可能性を残しつつ，鹿児島大学での代替開催の検討を進めることが承認された。この検討と準備のため，鹿児島大学の半田利弘氏には「日本天文学会2011年秋季年会準備幹事」の名称を付与することが承認された。また，企画セッション及び特別セッションの取り扱いは理事会で決定することが承認された。
III-8 2011年の全国同時七夕講演会のポスター制作費用（本原，資料2）
2011年全国同時七夕講演会広報のためのポスター製作費用として40万円程度支出することが提案され，承認された。
次の評議員会は，2011年7月9日に開催される予定である。

【資料リスト】

資料1 前回評議員会(2011/2/5)議事録
資料2 評議員会資料
2011年4月12日
議 長：観山正見 印
署名人：海部宣男 印
署名人：渡部潤一 印